Half Century

寄り添い半世紀

Monthly Hot Communication

生まれ変わっても一緒になりたいね

猪股　龍一さん（80歳）
トミ子さん（78歳）

石越町・赤谷
昭和33年11月入籍

★結婚当時の思い出は

【龍一】親戚の紹介で結婚しました。大工で、昭和29年から神奈川県へ出稼ぎに出ていたので、結婚までは1回しか会ったことがなかったね。

【トミ子】栗原市志波姫出身で、嫁いだ当時は山の中という印象が強かったです。

★印象深い出来事は

【二人】母が子宮がんのため、53歳の若さで亡くなったことです。長い間入院し、自宅に戻れずに亡くなったから悔やまれてなりませんでした。

【トミ子】義母とはとても仲が良かったのでつらかったね。

★現在の楽しみは

【龍一】石越町ペタンク協会会長とゲートボール協会、グラウンドゴルフ協会、老人クラブの副会長をしています。公民館の管理人もしているので、いろいろな人と知り合うことができて楽しいね。

【トミ子】兄弟で温泉に行くことですね。兄弟仲が良くてこの前は花山の温泉や一関に行ってきました。

★夫婦円満のコツは

【龍一】奥さんに逆らわないこと。世界一の奥さんです。

★やりたいこと

【龍一】健康なうちはペタンクなどを続けたいです。また「石越町赤谷神楽保存会」発足時からの会員です。好きな踊りは倒れるまで続けたいね。

【トミ子】今のまま過ごしたいね。孫の成長が楽しみです。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication

ふるさとを思う心

小峯　喜八さん（78歳）

登米市在京町人会連絡協議会役員、東京中田会会長
中田町（上沼）出身

東京中田会は平成の掛け声と共に、東京中野のサンプラザホールで産声を上げました。郷里と関東在住の人たちを結ぶ交流の場として発足。ふるさとの懐かしい味や農協の協力を得て、大型トラックに満載した農産物の即売など大変な賑わいを見せました。一方、会員の情報誌として「えんつこ」を発行しており、昨年には発足25年を記念して「えんつこ総集編」を編さんし、配布しました。

自分の生まれ育ったふるさとを思う気持ちは、誰でも同じだと思います。しかし、ふるさとのために何をしたら良いのか、喜んでもらえるのかが分からない現状です。例えば東京中田会として考えると、中田町域で今一番困っていることは何か、遠くにいる私たちにできることは何かないのか。お金や物だけでなく「三人寄れば文殊の知恵」で、何かしらの役に立つ事ができるものと思います。ぜひ市の方から具体的な情報の発信をお願いします。

しかしながら年を追うごとに、少子高齢化が進み、若い人たちは学業が終わるとふるさとに帰り、徐々に会員数は減少へと向かっています。誠に残念ですが、この問題は当会だけのことではありません。町人会全体の認識ですので、これからも綿密に協議していきたいと思っています。

今年は登米市市制施行10周年を迎え、旧9町の行政理念が一つになり同化できたのではないかと嬉しく思います。我々在京町人会もこれを機に、数年ごとにでも「在京町人会合同交流会」を実施して見てはいかがでしょうか。また新たな展開があるのではないかと期待しています。

私たち東京中田会も、常にわがふるさと・登米市の応援団の一員として共に歩み、日々発展して行きたいと思っています。

おらほの道の駅

道の駅津山「もくもくランド」

「もくもくランド秋祭り」「もくもく餅まき大会」

自慢のオール有機肥料米。生産者の阿部隆吉さん（左）と佐藤駅長（右）。

今月は、道の駅津山「もくもくランド」の佐藤賀津雄駅長にお話を伺いました。

Q道の駅津山でこれから開催するイベントなどを教えてください

10月18日（日）に「もくもくランド秋祭り」を開催します。公園内では新米もちつき大会や大福引抽選会、特設ステージでは歌謡ショーやビンゴゲーム大会など盛りだくさんの内容で、毎年市内外から大勢の人が訪れます。

また、今年は同日に「もくもく餅まき大会」も開催します。約5千個の餅を午前と午後の2回に分けてまきます。子どもよりも大人が夢中になって拾っていますね。

Q今の季節、お薦めの農産物を教えてください

これからは新米。津山の清水で栽培したおいしいコメです。リピーターが多く関東にも配送しています。新米の時期は玄米もあり、店内の精米機で精米することができます。つきたては最高ですね。

また、店頭にはダイコンやハクサイ、キャベツなどの秋野菜も多く並びます。ランド内の食事処「木里口」では、コメの粉で作った米粉麺と地元の野菜をたっぷり使用した『野菜あんかけ』が人気です。

↑モチモチとした食感の「登米粉めん」

↑米粉麺を使用した『野菜あんかけ』

【問い合わせ】道の駅津山「もくもくランド」
☎0225(69)2341

まちの文芸

短歌

作品募集！

●11月号は俳句・川柳です。住所・氏名・電話番号を記入し、9月30日(水)までご応募ください。作品には全てふりがなを振ってください。
●応募者多数の場合選考して掲載します。

風呂あがり庭で腰掛け汗をふく
雲間の三ヶ月涼しげに見ゆ。

本宮やつの（中田）

程良くに干せし梅成り美味しいと
言いつつ孫娘の顔はめっちゃくちゃ

熊谷タヘ子（中田）

精いっぱい短かき命終りしか
朝露にぬれ動かぬ熊蟬

小野寺典子（中田）

書道やめ菊も盆栽も止めたれど
やめてなるまで國風詩吟

千葉　源治（中田）

鍬を持ち東の空は朝焼けの
雨上りの畑に大根蒔かねば

阿部ふみ子（米山）

墓参り紅葉のような手を合す
曾孫を抱いてママは汗だく

佐藤ヒサ子（米山）

昼の時報聞き慣れぬ曲流れおり
市民歌と知り距離縮まりぬ

佐々木康子（米山）

青い地球猛暑日つづき温暖化
熱中症に気配る日々に

佐藤　禮子（米山）

軒先の花に二匹の揚げ羽蝶
行く夏偲びしばし見とるる

石崎よしの（米山）

病娘逝く母の身思い秋庵
一穂大姉と秋晴の日に

佐藤よしの（石越）

応募総数17作品